

## 第 164 回 ニセコ町まちづくり町民講座 開催結果概要

日時 平成 29 年 10 月 24 日 (火) 18:30~20:30

場所 ニセコ町民センター小ホール

参加者 28 名

講演「まちづくり基本条例とコミュニティ - 町の情報発信のあり方を考える -」

講師 野口将輝 (小樽商科大学准教授)

広報では、役場と町民、双方向のコミュニケーションにより、両者が情報収集をもとに変化し、時勢に応じた関係性を構築することが必要である。

ニセコ町の広報の現状としては、広報誌、コミュニティ FM および町民講座が主な情報源となっている。しかし、広報誌の 70 代以上の住民の活用率が急減している、情報を発信はしていても活用されていない、活用はされているものの情報をよく理解できている人が少ないといった状況である。また、情報が全く伝わっていない人もおり、そのうちのある程度には口コミで伝わっているが、町内会を含めコミュニティが希薄化しているために完全に情報が伝わっていない人がある。しかし、その人たちが必ずしも情報を欲しているわけでないということを考えると、情報は全員に届けなければならないとするか、関心のある人のみに届けると割り切るか、今後考えていかなければならない問題である。

口コミは非常に重要な情報発信ツールになっており、オピニオンリーダーと呼ばれる情報を拡散するものが存在している。これは主に町民講座に出席している人たちであることが多く、オピニオンリーダーを情報発信者として有効活用することも重要である。



## 講演に対する質問・意見

- ①資料 5 ページの自治体の広報に関して、一方通行で情報発信するのではなく双方向に行って、それをもとに住民も役場も変わる必要があることはその通りだと思う。変わる場合、役場は組織だから変わる機会はある。しかし、住民は個人であることが多い。住民を組織とすると町内会があるが、町内会が上手くいっていないところもある。町民講座を開いてもいつも同じメンバーで、役場が色々行動しても町民が応じていないことも多い。町民が応じていかないと上手くいかないと思う。そんな中で個人として住民が変わるにはどうしたらいいか。
- 住民が変わることは難しいことだと思う。広報のみで変わることはあまりなく、広報と他の何かで変わっていくことはある。しかし、なかなか変わらない。組織の中では、頻りに町民と係る人

は変わることがあっても、全体が変わることはなかなかない。広報よりも対面で話をしていたほうが効果は高い。ただ、町民講座など対面となると人数が少なかったり、メンバーが固定化されていたり、広がっていかない。そのため、町民講座に参加した人たちの帰宅後の力に頼るものは大きい。コミュニティのあり方を変えていくことは難しいかもしれないが、小さい町だとまだ変えやすいと思う。

②広報の効果に関する調査であるが、なぜそのような調査をしているのか。

→どれだけ人の心を変えられるか知りたいと思ったから。しかし、なかなか思ったとおりに変えられるものでもないことが分かった。

③調査した時期や人数、どうやってその対象を選んだのか。

→国勢調査の年齢を参考に各家を回って対面で行った。全体に偏りが無い様に町民の6%くらいを選んだ。

④町民講座について、いつも町民講座が行われるのは平日の夜で、それでは女性が来られないので変えて欲しい。聞きたい人もいっぱいいると思う。男性中心の社会で、どうやって女の人に来るのか。どのくらい来ているかは分からないが、職員の講座じゃないかと思うこともある。もっと広く町民を考えて欲しい。週末の昼にするとか、時間帯を変えて欲しい。情報が伝わってなかったりするの、それも関係しているのではないのか。

→総合計画の調査結果からみても、南側の地区の満足度が低かったりすることもある。参加するのに、交通等の問題もあって参加できない人もいるから、やり方を考えていかなければいけないと思う。しかし、昼間は仕事で来られない人や土日でも来られない人もいて、平日の18時半に落ち着いてしまうところがある。いつも町民センターではなく、たまには場所を変えてやるなどしたい。

(山本課長)



ワークショップ／各グループの意見

①・集まって議論するところから始まることもある。

- ・必要な人にピンポイントで伝える必要も出てくると思う。
- ・広報誌だけでなく、新聞折込みの活用もある。

・今、自分の生活がどうなっているのか、ということ意識することが大事である。そうしないと気づいたときにはもう遅いこともある。日頃から集まって情報を交換できるとよい。

②・町内会が大事である。新しく来た人などが町内会に入らないということには課題もある。オピニオンリーダーとしての役割を町内会長が果たし、しっかりとした町内会を運営していくことが大

事になる。

- ・町内会の加入について、今、役場では越してきた人に町内会長を教えることはしている。それでも入っている人は少ないので、会長のほうから声をかけに行くなどしてはいいのではないか。
- ③・町内会に入っていないと広報誌だけでなく必要な情報が全く届いていないので問題だと思う。
- ・関心が低い人に町内会に入ってもらっては難しいかもしれないが、まず入ってもらって関心をもってもらえるのがいいのではないか。そのためには人付き合いが大事で、この人に言われたから入ろうかな、といった信頼関係を作るのも大事になるし、言う側も言い方に気をつけるなど配慮が必要になる。
  - ・みんながニセコ愛をもつことで関心が高まると思う。
  - ・田舎だから出来ることを考えられればいと思う。
- ④・コミュニティを活発にすることだけがいいことなのか、放っておいてほしい人もいると思うし、様々な価値観を持った人がいる。
- ・絶対伝えると考えるのではなく、ある程度線引きは必要だと思う。
  - ・若者もあまり参加出来ていない、高齢者もなかなか参加できないという状況なので、どちらも参加できる入り口があるとよい。
  - ・本当に住民が欲している町民講座を開催できたらよい。





### 講師総評

コミュニティの活性化が大事なことか、みんなが参加しなければいけないのか、といった点には疑問がある。まちづくり基本条例の第10条に「わたしたち町民は、まちづくりの主体であり、まちづくりに参加する権利を有する。」とある。解説のなかで、権利であって責務ではないと書かれている。この「責務」というのが重要なポイントであって、全員が活発にやっていかなければならないという義務はない。さらに、世代間によって格差もあるし、価値観も異なる。町内会への加入についても転入してきた人が自ら町内会長のところへ出向くのと町内会長が迎えに行くのでは加入する、しないが変わってくると思う。また、広報活動を全て広報誌で行うのかといったところにも疑問はある。「この人に伝えたい」といった相手の違いで広報手段の違いも生まれる。誰が何を見て情報を得ているかということを知らないと広報手段を対象によって変化させることは出来ないことである。町民講座等、「広く伝える」ということを考えると夜にやるのがベストになってしまう。対象の世代によって時間を変えることも必要になる。この講演を通して、コミュニティの重要性が伝わっていたらよい。コミュニティがしっかりしていると健康に繋がったり、緊急時の対応に繋がったり、いいことがある。しかし反対に、コミュニティの繋がりが強すぎると、外からは入ってきにくい。今回の講演のことも外で話して、町内会のこととか話をして行って欲しい。

以上